



## PDA 京都市立堀川高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2020年8月4日（火）13:00～15:00

場所：京都市立堀川高等学校（Zoomを用いたオンライン開催）

参加者：生徒7名、教員2名、PDA認定教育ジャッジ

助成：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、公益財団法人日本財団、公益財団法人KDDI財団

ラウンド前に、Point of Informationの練習を行い、生徒の緊張もほぐれたところで早速1ラウンド目の準備が始まりました。論題「Japan should make voting compulsory. (日本は投票を義務化するべきだ。)」について、15分間の準備時間の中で、ディベート経験のある2年生が自ら進行役を担い、1年生からもアイデアが出るようサポートし、チームメイトと積極的に意思疎通をはかる姿が見られました。ディベートが始まると、若者の政治への関心を高める必要性、ランダム票が増える問題、SNSを選挙活動に活用する代案など活発な議論が交わされました。ラウンド実践を通して、各スピーカーの役割やスピーチ構成の理解を深め、2ラウンド目です。論題「School summer holidays should be shortened. (学校の夏休みは短縮されるべきである。)」では、ジャッジからのフィードバックを早速反映したスピーチの応酬でした。宿題無しの短縮夏休みが提案され、そのメリットが説明されると、スウェーデンを例に長い夏休みのメリットを、更には手元にあった夏休みの計画書カメラに見せ、生徒の計画能力も高まります、と説明する場面もありました。「説得力のある論理的なスピーチを組み立てる難しさを感じた」、「英単語が出てこないもどかしさを感じたが、このもどかしさを英語学習のモチベーションにしたい」という生徒の声に、相手により伝わりやすいスピーチができるようになりたい、という前向きな気持ちが画面の向こうのジャッジにも伝わってきました。生徒の皆さんのオンラインディベートへの対応力の高さ、分かりやすく伝えるための柔軟な発想や機転が光る、ディベート体験会となりました。



### 参加者の声（アンケートより抜粋）

- 1ラウンド目と2ラウンド目で自分の成長を感じられて、とてもよかったです。
- 英語でディベートをちゃんとしたのは初めてだったけど、英語が話せると楽しいな、と実感できました。
- 去年関西交流大会に参加して実力の差を痛感したが、今回の講習でも足りない部分を実感して、悔しさと共にそれを克服する楽しみを感じられた。とても勉強になりました。今後に活かしていきたいです。
- 最初は緊張していてできるか不安でしたが、実際やってみてアドバイスもいただいて、自信にもつなげることができ、参加してよかったと思いました。
- 思っていた以上にアタフタして、難しかったし、自分の英語力の乏しさと即興の難しさをひしひしと感じました。でも、英語に関する関心がとても強くなり、モチベーションにつながりました。
- 英語がスムーズに出てこないもどかしさが、これからの英語を勉強するモチベーションになりました。
- 言いたいことを言い切ることができて、とても楽しかったです。



### ベストディベーターに選ばれた皆さん（順不同）

さん  
さん  
さん